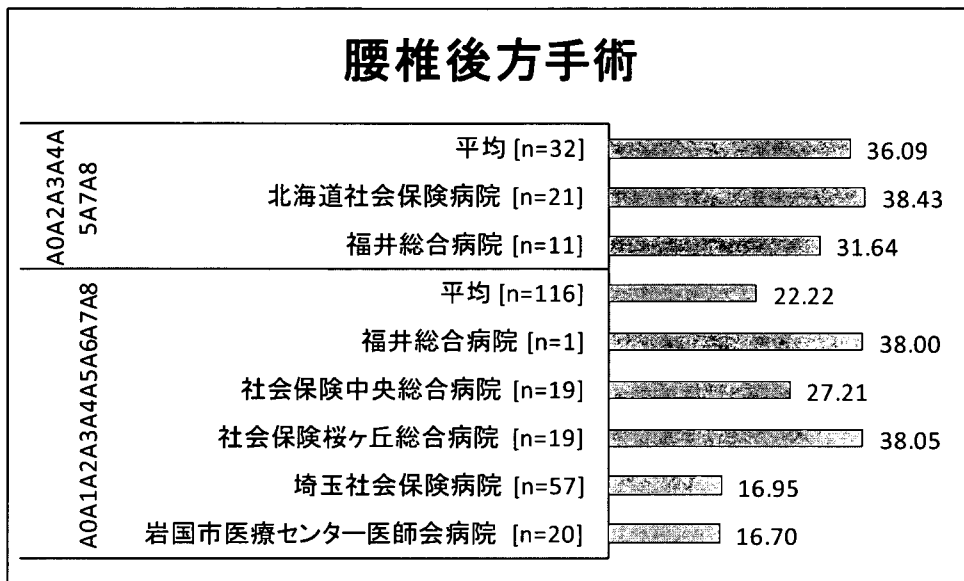
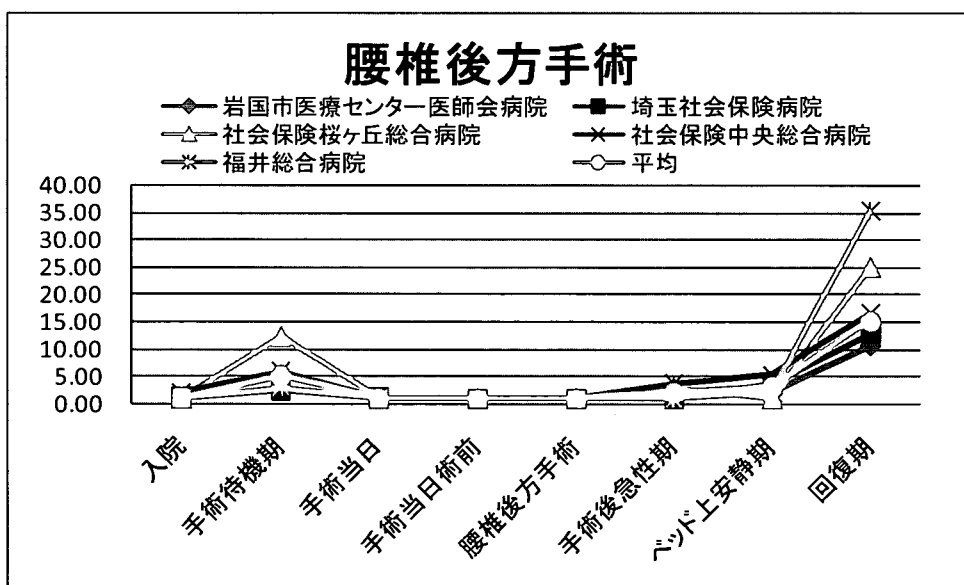


【中間集計】



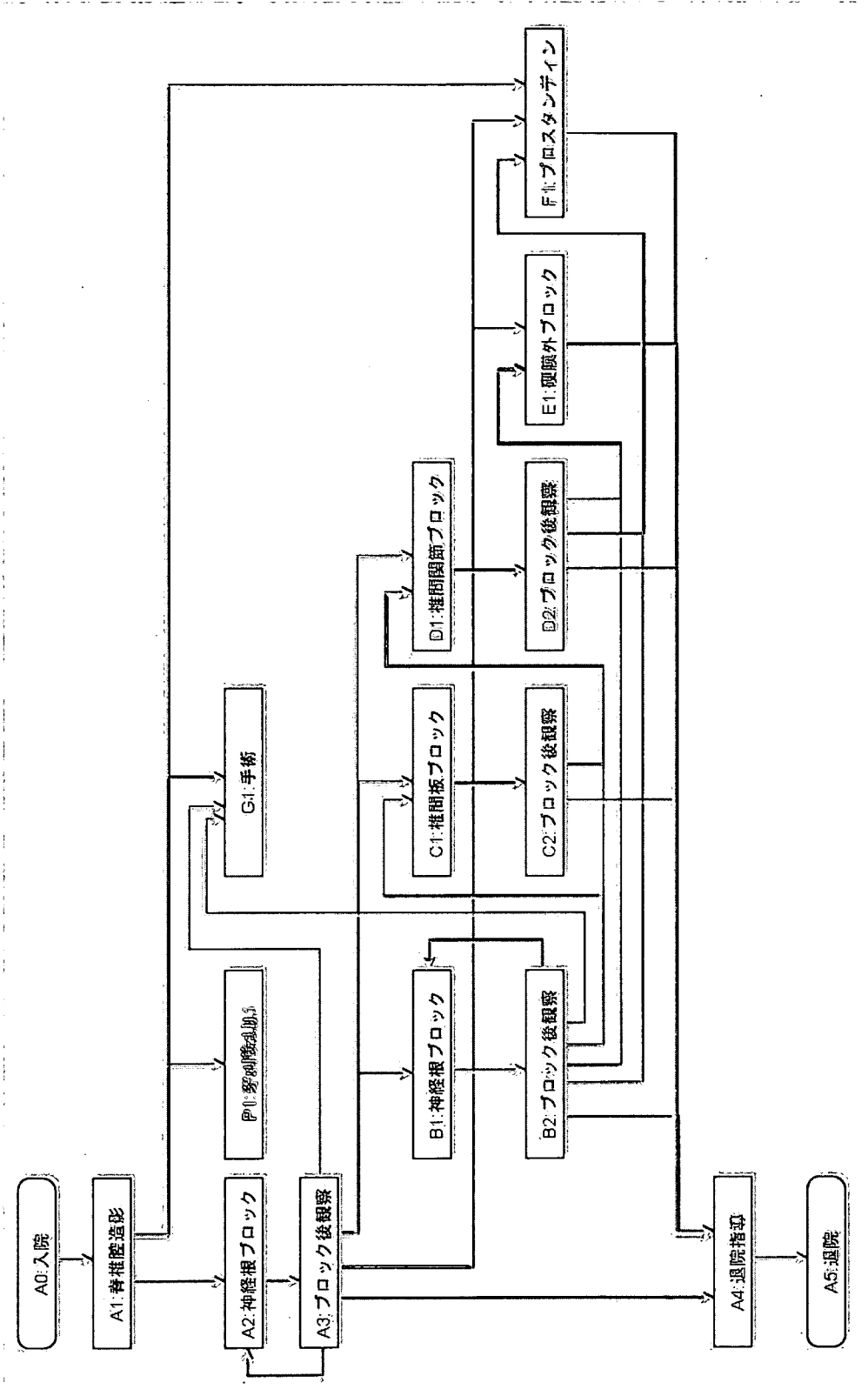
腰椎後方手術の平均在院日数比較



腰椎後方手術のユニット滞在日数比較

【中間集計】

坐骨神経痛



【中間集計】

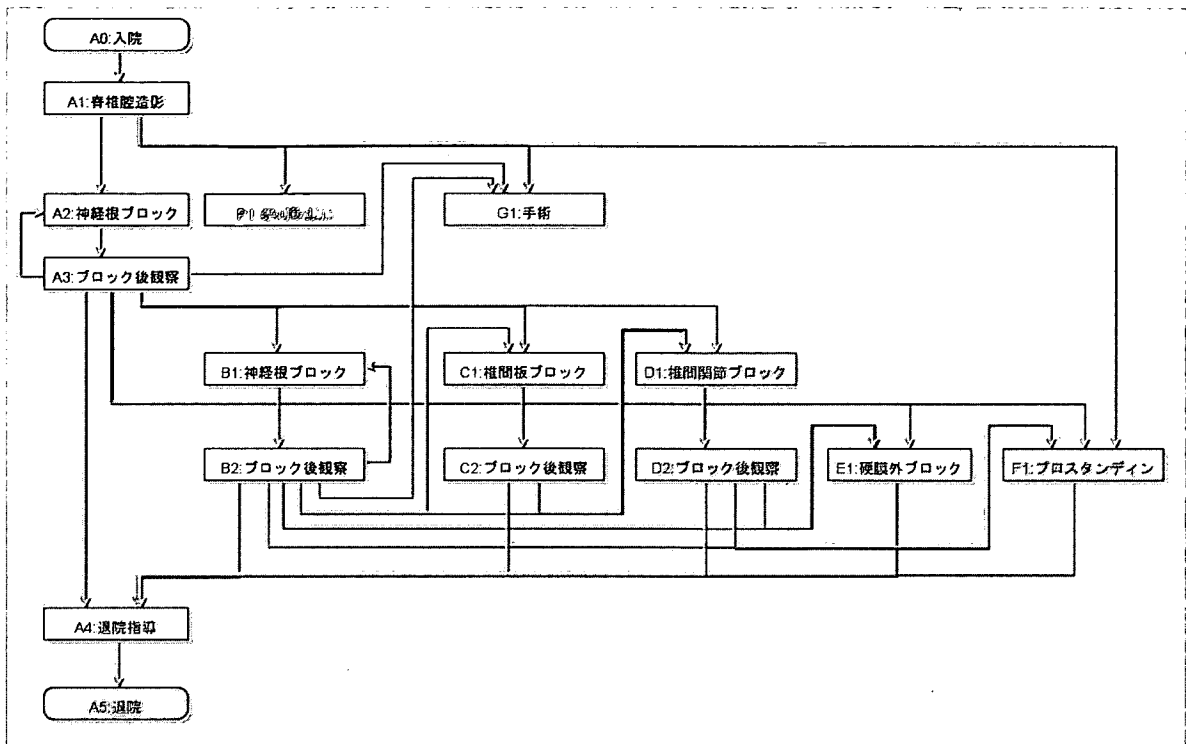
移行ロジック一覧

2007年度

坐骨神経痛

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院	入院後に脊椎造影を行い、その後治療(手術を含む)を行う予定の患者	A1:脊椎造影	
A1:脊椎造影	筋力低下がないか軽度あるいはあっても進行が急速でなく、馬尾症状がない 神経圧迫所見がなく、血行障害による下肢痛が疑われる	A2:神経根ブロック F1:プロスタンディン	
A2:神経根ブロック	筋力低下進行が急速で造影所見と一致する、あるいは馬尾症状がある 起立歩行時の頭痛出現	G1:手術 P1:穿斜後頭痛	
A3:ブロック後観察	予定のブロックが終了する	A3:ブロック後観察	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず	A2:神経根ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が下肢痛	A4:退院指導 B1:神経根ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 or 痛みの中心が腰臀部痛andMRIで椎間関節より椎間板の変性が強い	C1:椎間板ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が腰臀部痛/MRIで椎間関節より椎間関節の変性が強い	D1:椎間関節ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず	E1:硬膜外ブロック	
	and 腰椎手術の既往なし		
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず	F1:プロスタンディン	
	and 腰椎手術の既往あり		
A4:退院指導	ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	G1:手術	
B1:神経根ブロック	退院指導が終了する	A5:退院	
B2:ブロック後観察	予定のブロックが終了する	B2:ブロック後観察	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず	A4:退院指導 B1:神経根ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が腰臀部痛/MRIで椎間関節より椎間板の変性が強い	C1:椎間板ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が腰臀部痛andMRIで椎間関節より椎間関節の変性が強い or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが1回目and本人が手術を希望せず	D1:椎間関節ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず	E1:硬膜外ブロック	
	and 腰椎手術の既往なし		
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず	F1:プロスタンディン	
	and 腰椎手術の既往あり		
	ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	G1:手術	
C1:椎間板ブロック	予定のブロックが終了する	C2:ブロック後観察	
C2:ブロック後観察	翌朝に効果あり	A4:退院指導	
	翌朝に効果なし	D1:椎間関節ブロック	
D1:椎間関節ブロック	予定のブロックが終了する	D2:ブロック後観察	
D2:ブロック後観察	翌朝に効果あり	A4:退院指導	
	翌朝に効果なしand腰椎手術の既往なし	E1:硬膜外ブロック	
	翌朝に効果なしand腰椎手術の既往あり	F1:プロスタンディン	
E1:硬膜外ブロック	硬膜外ブロックが終了し、症状が軽快する	A4:退院指導	
F1:プロスタンディン	プロスタンディンが終了し、症状が軽快する	A4:退院指導	

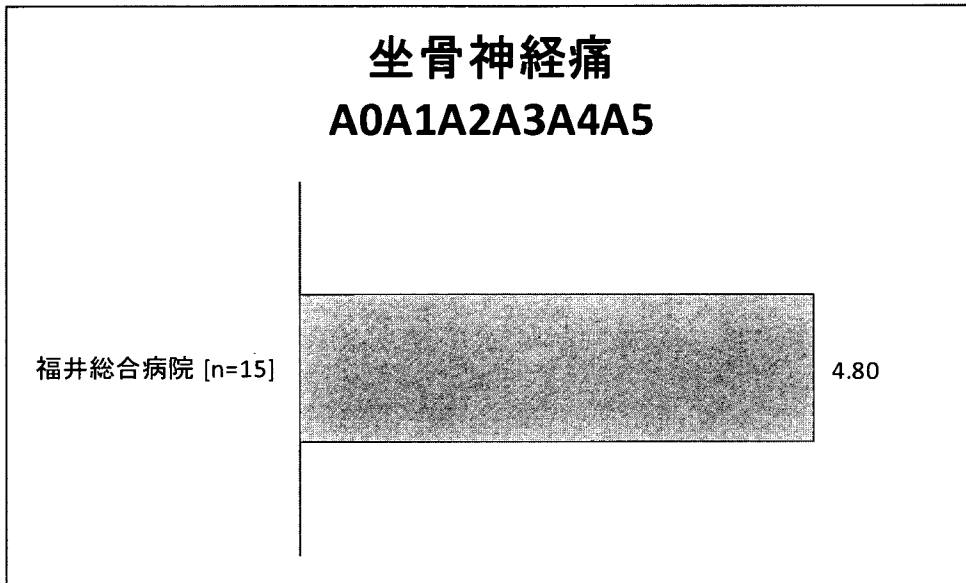
【中間集計】



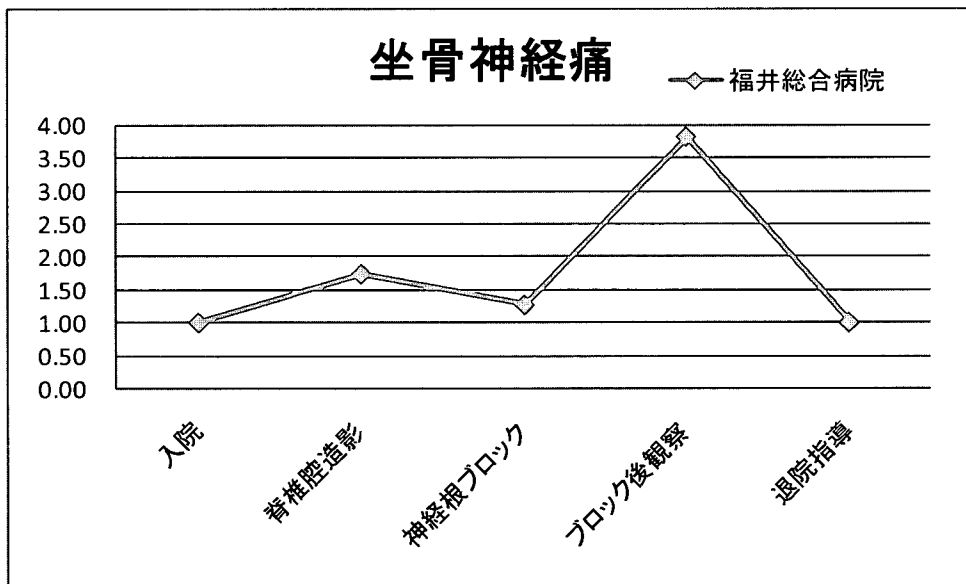
坐骨神経痛の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
坐骨神経痛	A0-A1-A2-A3-A4-A5	15	68.2%	○	95.5%
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-A4-A5	3	13.6%	○	
	A0-A1-A2-A3-A2-A3-G1	2	9.1%	○	
	A0-A1-A2-A3-A2-A3-A4-A5	1	4.5%	○	
	A0-A1-D1-D2-A4-A5	1	4.5%	×	
	計	22	100.0%		

【中間集計】



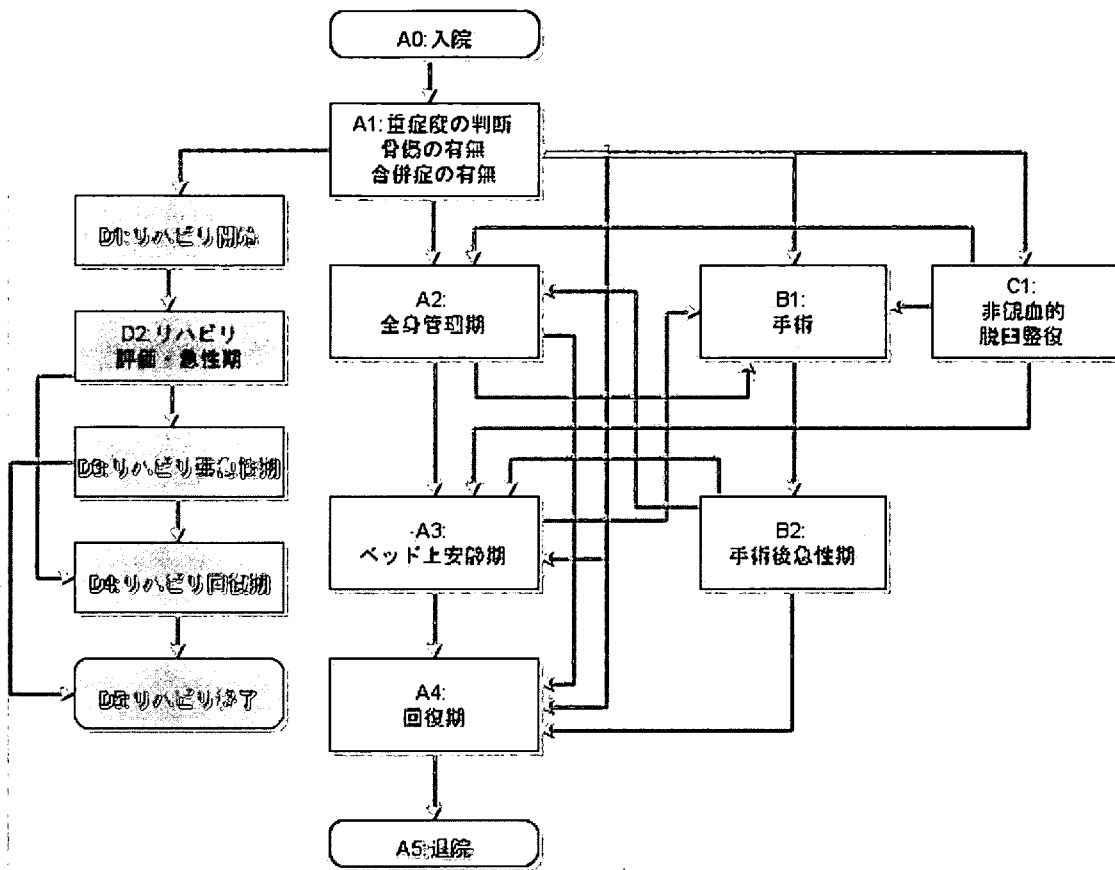
坐骨神経痛の平均在院日数比較



坐骨神経痛のユニット滞在日数比較

【中間集計】

頸髄損傷



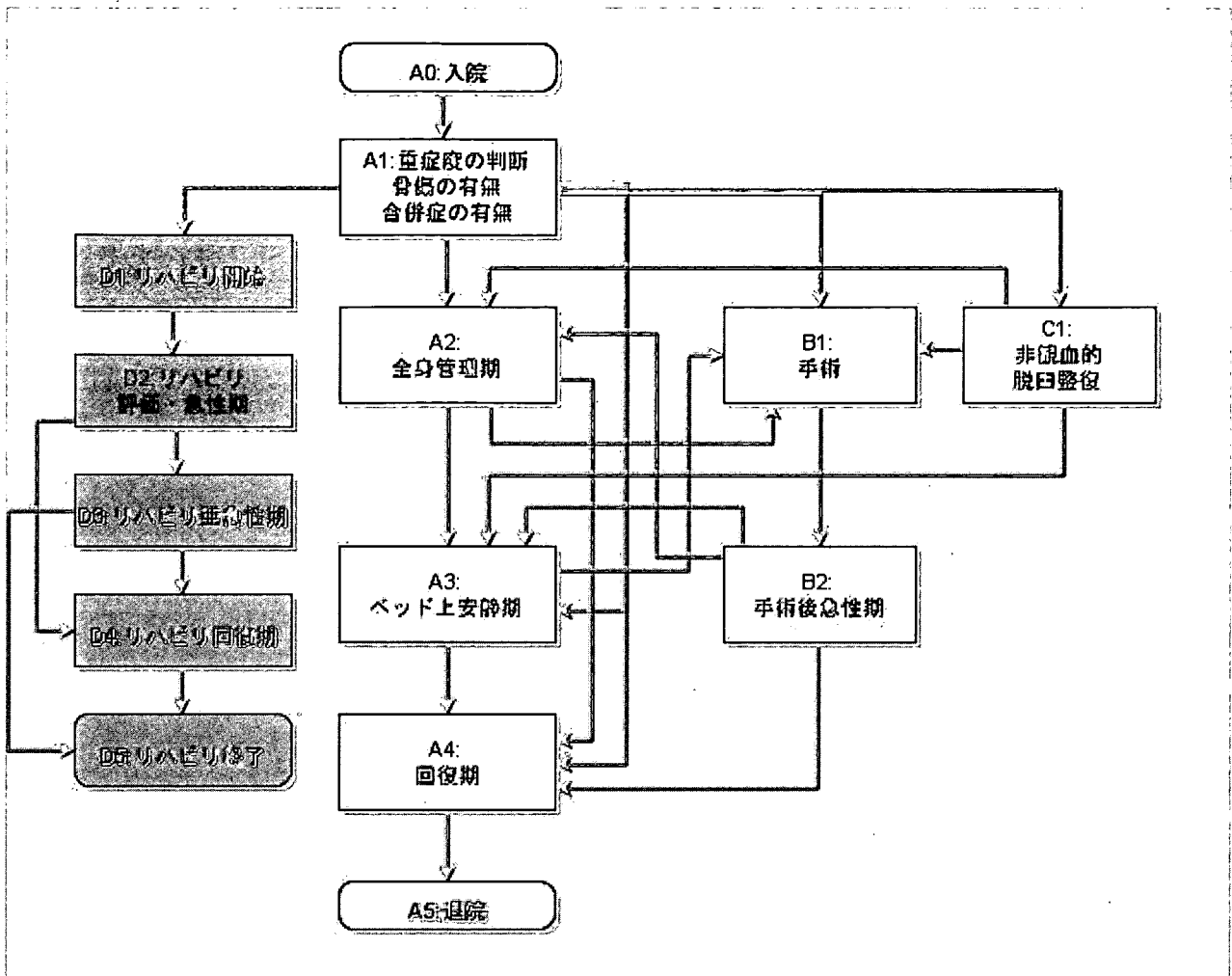
【中間集計】

移行ロジック一覧 頸髄損傷

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 入院	横断性頸髄損傷あるいは中心性頸髄損傷	A1: 重症度の判断 骨傷の有無 合併症の有無	
A1: 重症度の判断 骨傷の有無 合併症の有無	横断性頸髄損傷/血圧低下 and 徐脈 and 頸椎以外に骨折なし and 頭部・胸腹部外傷なし	A2: 全身管理期	
	横断性頸髄損傷あるいは中心性頸髄損傷 and 血圧・脈拍安定 and 頸椎以外に骨折なし	A3: ベッド上安静期	
	中心性頸髄損傷 and 骨傷なし	A4: 回復期	
	完全頸髄損傷 and 意識清明・自発呼吸あり and 頸椎骨折による頸髄圧迫著明	B1: 手術	
	横断性頸髄損傷あるいは中心性頸髄損傷 and 意識清明・自発呼吸あり and 頸椎脱臼あり	C1: 非観血的 脱臼整復	
	入院当日あるいは翌日	D1: リハビリ開始	並列
A2: 全身管理期	血圧・脈拍安定 and 頸椎不安定 and 頸椎安定だが座位許可されず	A3: ベッド上安静期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎安定で座位許可	A4: 回復期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎不安定で手術適応	B1: 手術	
A3: ベッド上安静期	頸椎安定し座位許可 頸椎不安定で手術適応	A4: 回復期 B1: 手術	
A4: 回復期	症状固定し転院・入所・退院	A5: 退院	
B1: 手術	予定手術が終了する	B2: 手術後急性期	
B2: 手術後急性期	血圧低下・徐脈 and 血圧・脈拍安定 and 頸椎不安定 and 頸椎安定だが座位許可されず	A2: 全身管理期 A3: ベッド上安静期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎安定性良好で座位許可	A4: 回復期	
	脱臼整復 and 血圧低下・徐脈	A2: 全身管理期	
C1: 非観血的 脱臼整復	脱臼整復 and 血圧・脈拍安定	A3: ベッド上安静期	
	脱臼整復されず	B1: 手術	
D1: リハビリ開始	全例	D2: リハビリ 評価・急性期	
D2: リハビリ 評価・急性期	リハビリ行為によって、全身状態が変動しうる	D3: リハビリ亜急性期	
	リハビリ行為によって、全身状態が変異する可能性がほとんどない	D4: リハビリ回復期	
D3: リハビリ亜急性期	リハビリ行為によって、全身状態が変異する可能性がほとんどない	D4: リハビリ回復期	
	症状が固定し、退院する	D5: リハビリ終了	
D4: リハビリ回復期	症状が固定し、退院する	D5: リハビリ終了	

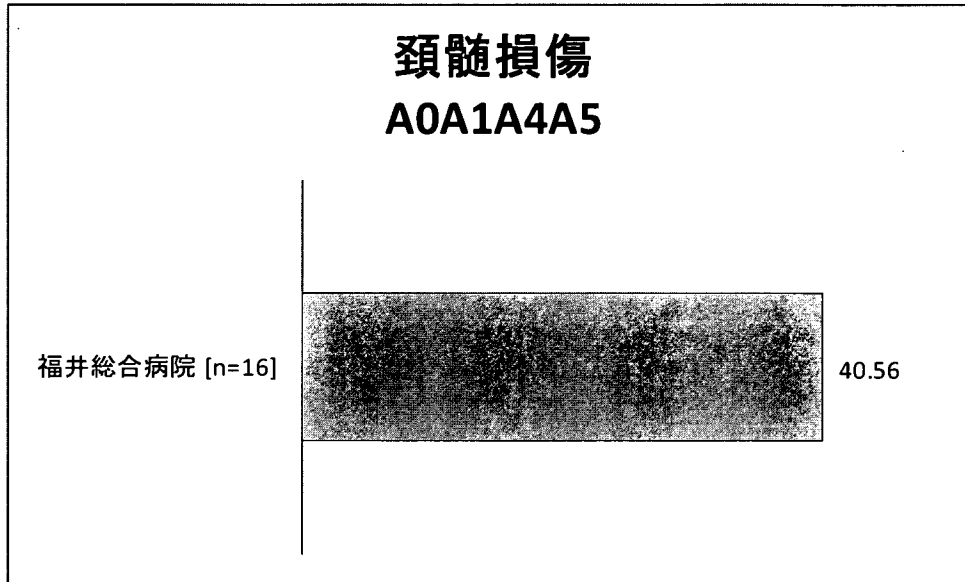
【中間集計】



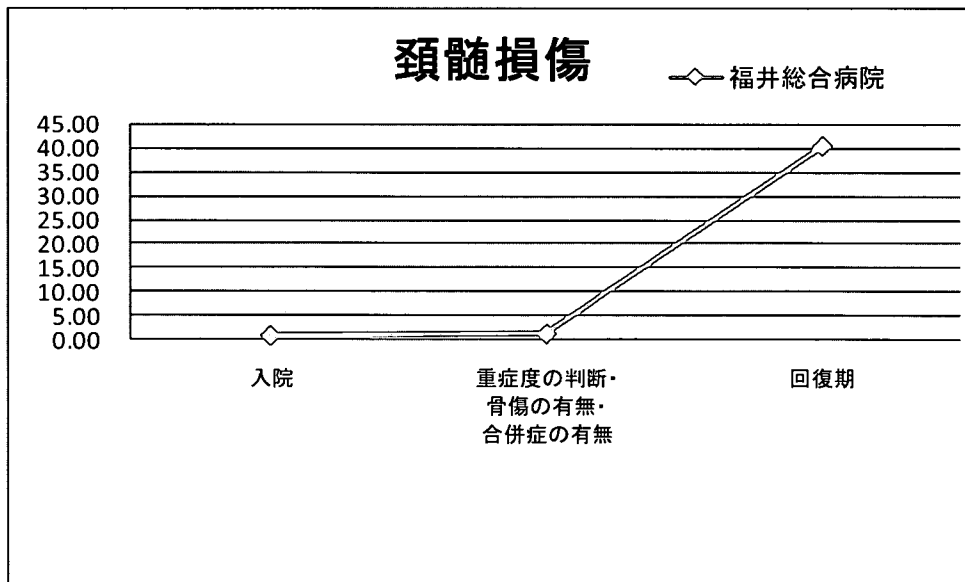
頸髄損傷の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
頸髄損傷	A0-A1-A4-A5	16	80.0%	○	80.0%
	A0-A1-A3-A4-A5	4	20.0%	×	
	計	20	100.0%		

【中間集計】



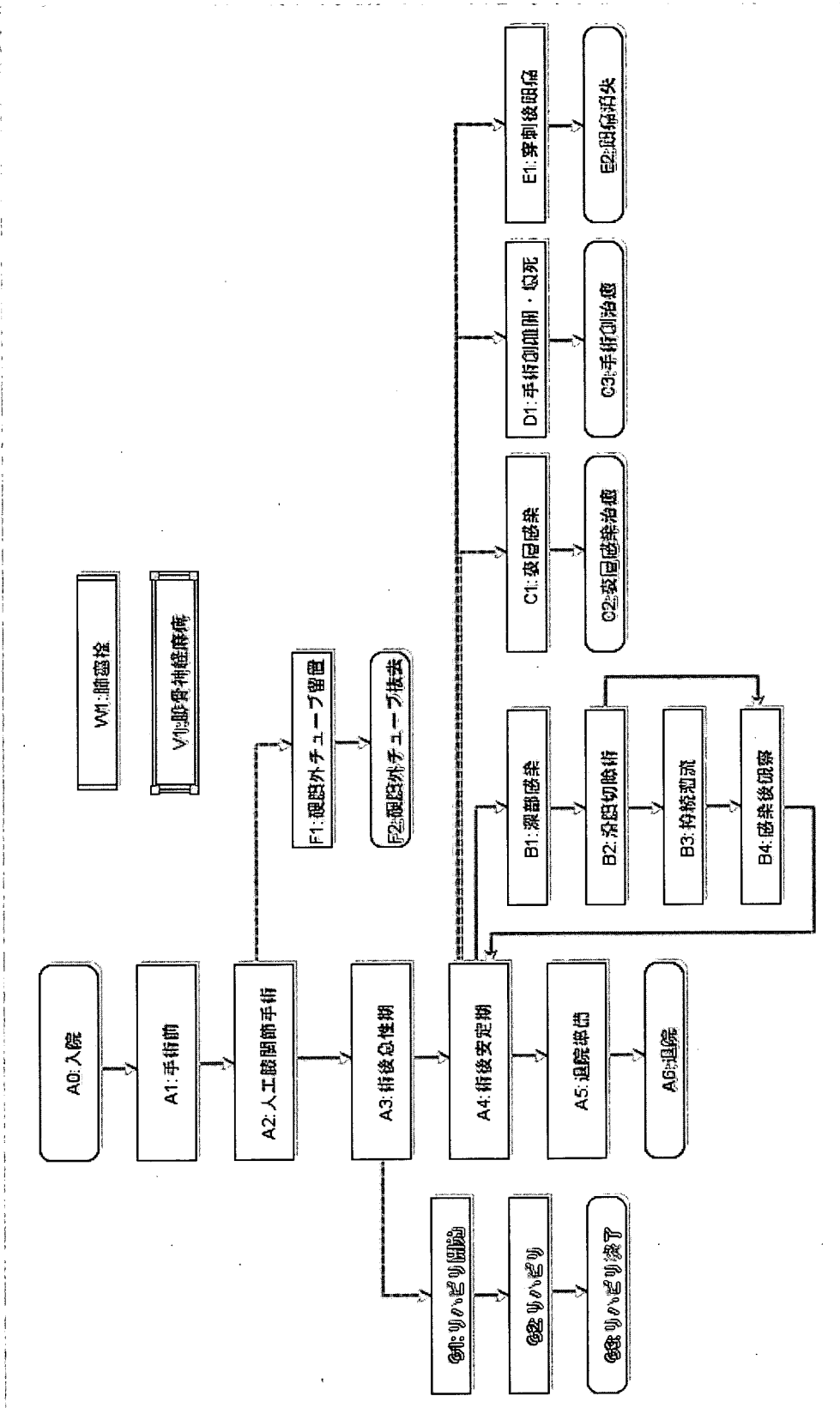
頸髄損傷の平均在院日数比較



頸髄損傷のユニット滞在日数比較

【中間集計】

人工膝関節手術



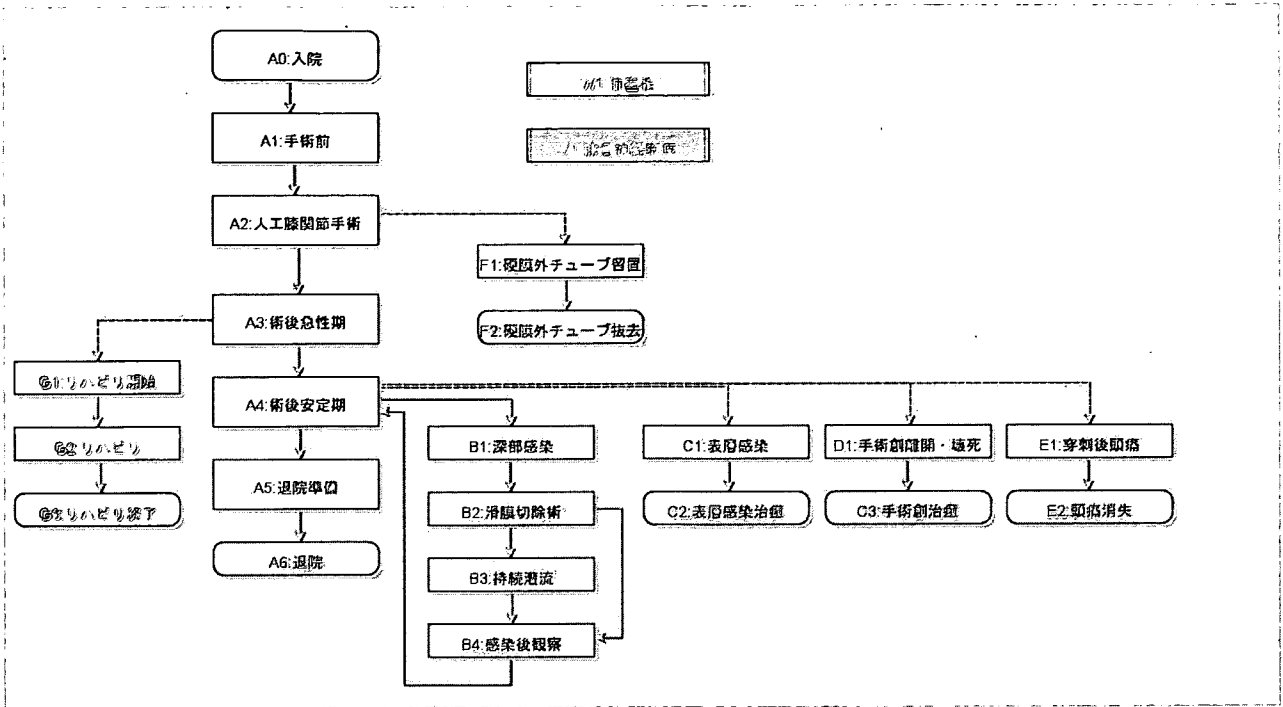
【中間集計】

移行ロジック一覧 人工膝関節全置換術

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院	無条件で移行	A1:手術前	
A1:手術前	以下の手術の準備が終了する 手続き(手術同意書あり) and 物品準備(手術器械・インプラント確認and作図・設計終了)	A2:人工膝関節手術	
A2:人工膝関節手術	予定の手術が終了する 硬膜外チューブが留置されている	A3:術後急性期 F1:硬膜外チューブ留置	並列
A3:術後急性期	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸が安定する) and 麻酔状態から回復(下肢の知覚・運動の回復and腸蠕動の回復) 手術翌日	A4:術後安定期 G1:リハビリ開始	並列
A4:術後安定期	膝関節機能(リハビリゴールを達成する) and 環境調整(退院先環境整備が終了する) and 身体ケア(ケア計画が完了する) 所見(膝関節発赤・腫脹・熱感・発熱) and 検査(CRP・白血球数高値・関節液培養陽性) 所見(創部発赤・熱感) and 検査(関節液培養陰性) 創部離開・壊死している 起立時頭痛の出現	A5:退院準備 B1:深部感染 C1:表層感染 D1:手術創離開・壊死 E1:穿刺後頭痛	並列 並列 並列
A5:退院準備	退院指導・調整が終了する	A6:退院	
B1:深部感染	手続き(同意書あり) and 身体状況(麻酔をかけられる状態にある)	B2:滑膜切除術	
B2:滑膜切除術	手術中持続灌流装置留置 手術中持続灌流装置留置せず	B3:持続灌流 B4:感染後観察	
B3:持続灌流	持続灌流装置を抜去した	B4:感染後観察	
B4:感染後観察	感染が鎮静化した	A4:術後安定期	
C1:表層感染	創部の発赤・熱感が消失する	C2:表層感染治癒	
D1:手術創離開・壊死	創が治癒する	C3:手術創治癒	
E1:穿刺後頭痛	頭痛が消失する	E2:頭痛消失	
F1:硬膜外チューブ留置	硬膜外チューブを抜去した	F2:硬膜外チューブ抜去	
G1:リハビリ開始	リハビリプログラム確認・ゴール設定	G2:リハビリ	
G2:リハビリ	退院する	G3:リハビリ終了	

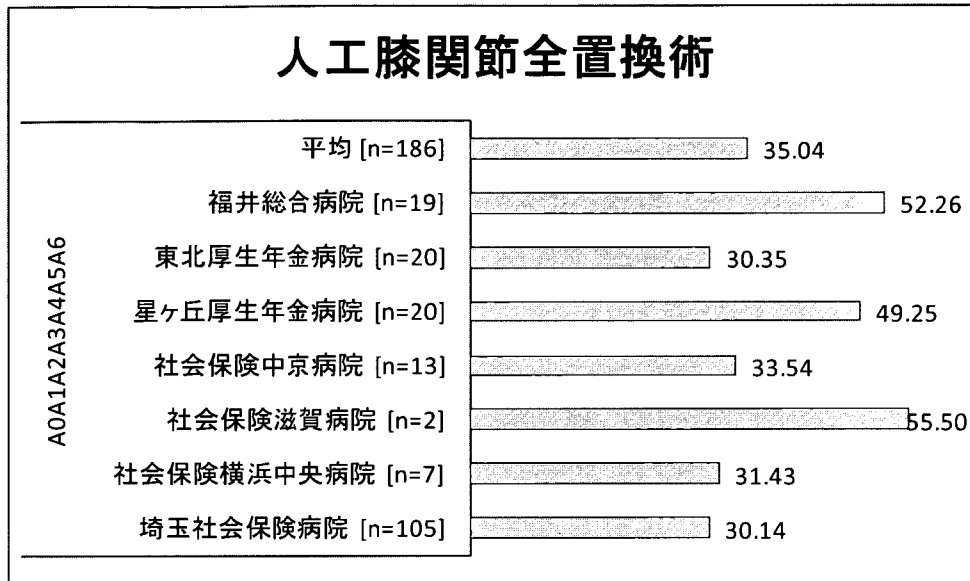
【中間集計】



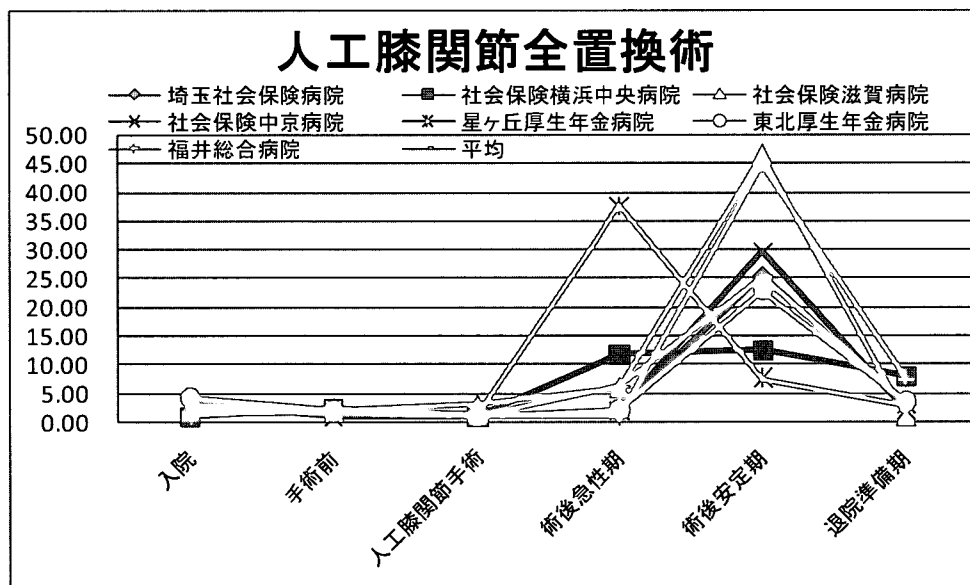
人工膝関節手術の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
人工膝関節全置換術	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6	186	97.9%	○	97.9%
	A0-A1-A2-A3-A4-A1-A2-A3-A4-A5-A6	4	2.1%	×	
	計	190	100.0%		

【中間集計】



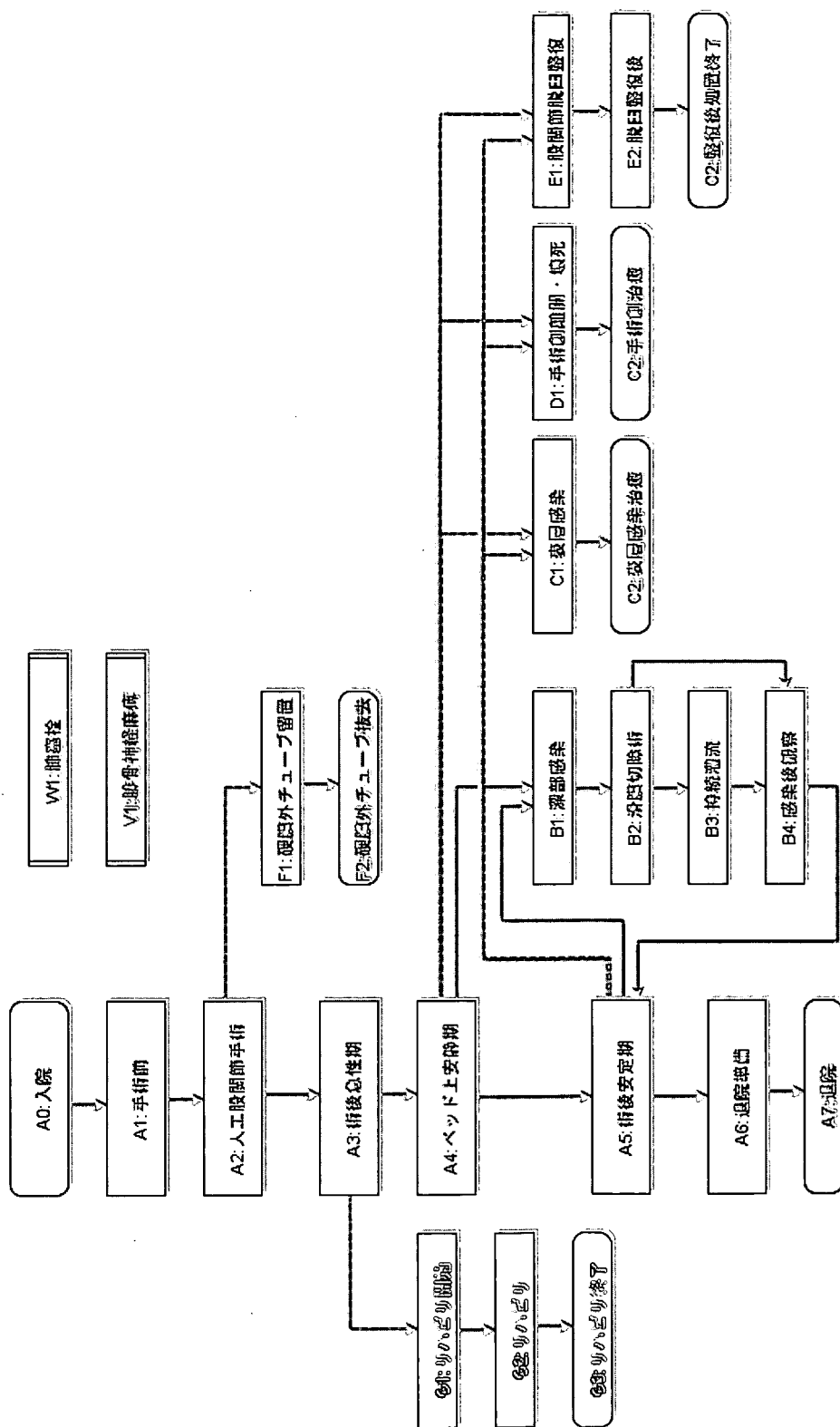
人工膝関節手術の平均在院日数比較



人工膝関節手術のユニット滞在日数比較

【中間集計】

人工股関節手術



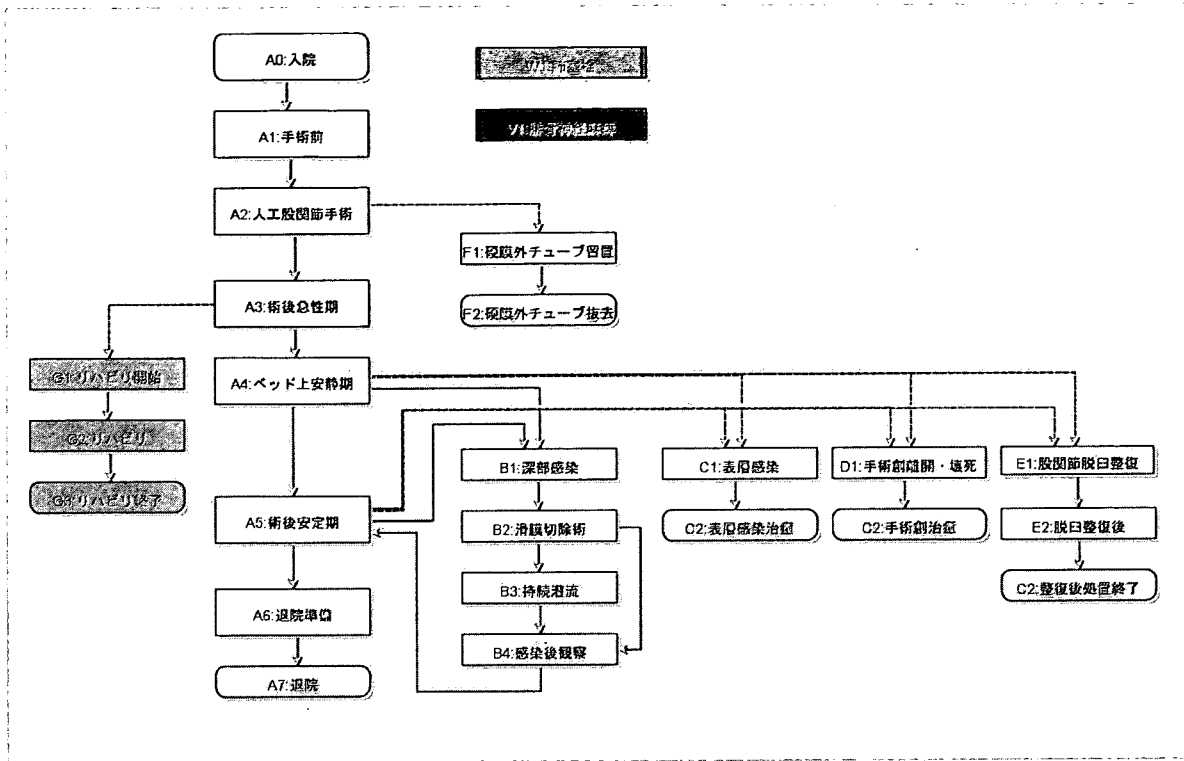
【中間集計】

移行ロジック一覧 人工股関節全置換術

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院		A1:手術前	
A1:手術前	以下の手術の準備が終了する 手続き(手術同意書あり) and 物品準備(手術器械・インプラント確認作図・設計終了)	A2:人工股関節手術	
A2:人工股関節手術	予定の手術が終了する 硬膜外チューブを留置した	A3:術後急性期 F1:硬膜外チューブ留置	並列
A3:術後急性期	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸)が安定する and 麻酔状態から回復(下肢の知覚・運動の回復and腸蠕動の回復) 手術翌日	A4:ベッド上安静期 G1:リハビリ開始	並列
A4:ベッド上安静期	ベッド上安静が解除される 所見(股関節発赤・腫脹・熱感、発熱) and 検査(CRP・白血球数高値、関節液培養陽性) 所見(創部発赤・熱感) and 検査(関節液培養陰性) 創部離開・壊死している 身体所見(股関節痛があるand股関節が内旋位にある) and 検査所見(レントゲンで股関節が脱臼している)	B1:深部感染 C1:表層感染 D1:手術創離開・壊死 E1:股関節脱臼整復	並列 並列 並列
A5:術後安定期	股関節機能(リハビリゴールを達成する) and 環境調整(退院先環境整備が終了する) and 身体ケア(ケア計画が完了する) 所見(股関節発赤・腫脹・熱感、発熱) and 検査(CRP・白血球数高値、関節液培養陽性) 所見(創部発赤・熱感) and 検査(関節液培養陰性) 創部離開・壊死している 身体所見(股関節痛があるand股関節が内旋位にある) and 検査所見(レントゲンで股関節が脱臼している)	A6:退院準備 B1:深部感染 C1:表層感染 D1:手術創離開・壊死 E1:股関節脱臼整復	 並列 並列
A6:退院準備	退院指導・調整が終了する	A7:退院	
B1:深部感染	手続き(同意書あり) and 身体状況(麻酔をかけられる状態にある)	B2:滑膜切除術	
B2:滑膜切除術	手術中持続灌流装置留置 手術中持続灌流装置留置せず	B3:持続灌流 B4:感染後観察	
B3:持続灌流	持続灌流装置を抜去した	B4:感染後観察	
B4:感染後観察	感染が鎮静化する	A5:術後安定期	
C1:表層感染	創部発赤・熱感がなくなる	C2:表層感染治癒	
D1:手術創離開・壊死	創が治癒する	C2:手術創治癒	
E1:股関節脱臼整復	レントゲンで整復されている	E2:脱臼整復後	
E2:脱臼整復後	整復後の安静・固定が解除される	C2:整復後処置終了	
F1:硬膜外チューブ留置	硬膜外チューブを抜去する	F2:硬膜外チューブ抜去	
G1:リハビリ開始	リハビリプログラム確認・ゴール設定	G2:リハビリ	
G2:リハビリ	退院する	G3:リハビリ終了	

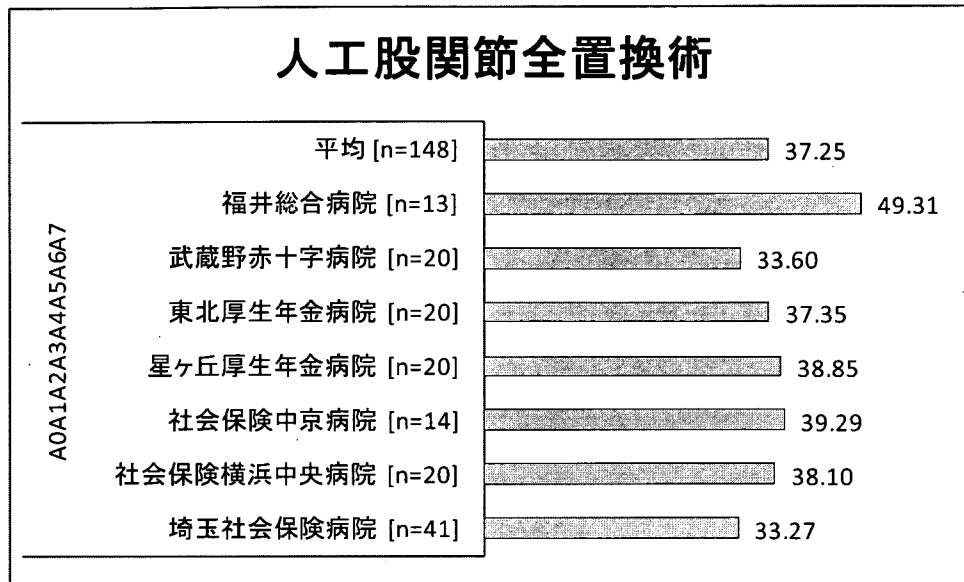
【中間集計】



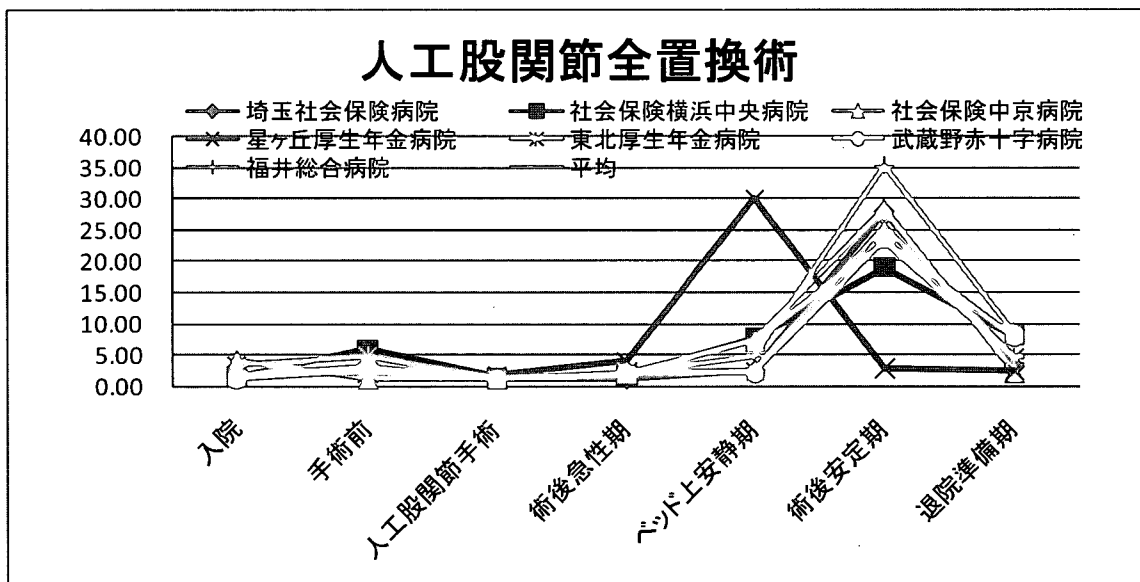
人工股関節手術の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
人工股関節全置換術	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A7	148	99.3%	○	99.3%
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A5-A6-A7	1	0.7%	×	
	計	149	100.0%		

【中間集計】



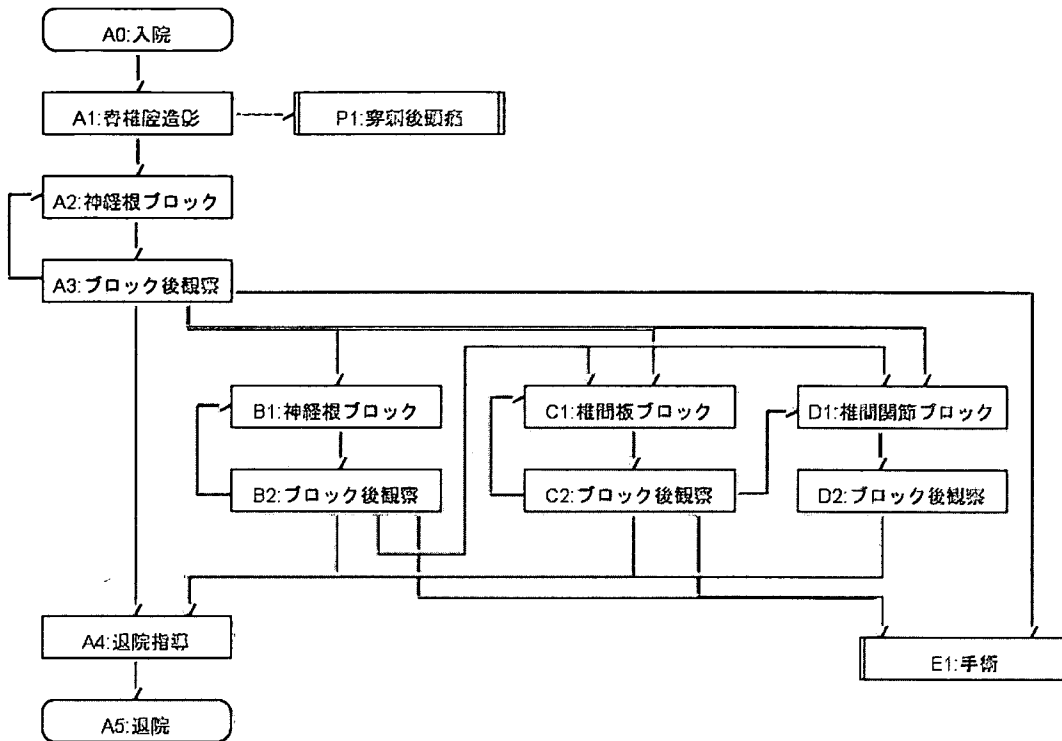
人工股関節手術の平均在院日数比較



人工股関節手術のユニット滞在日数比較

【中間集計】

頰椎症性神経根症



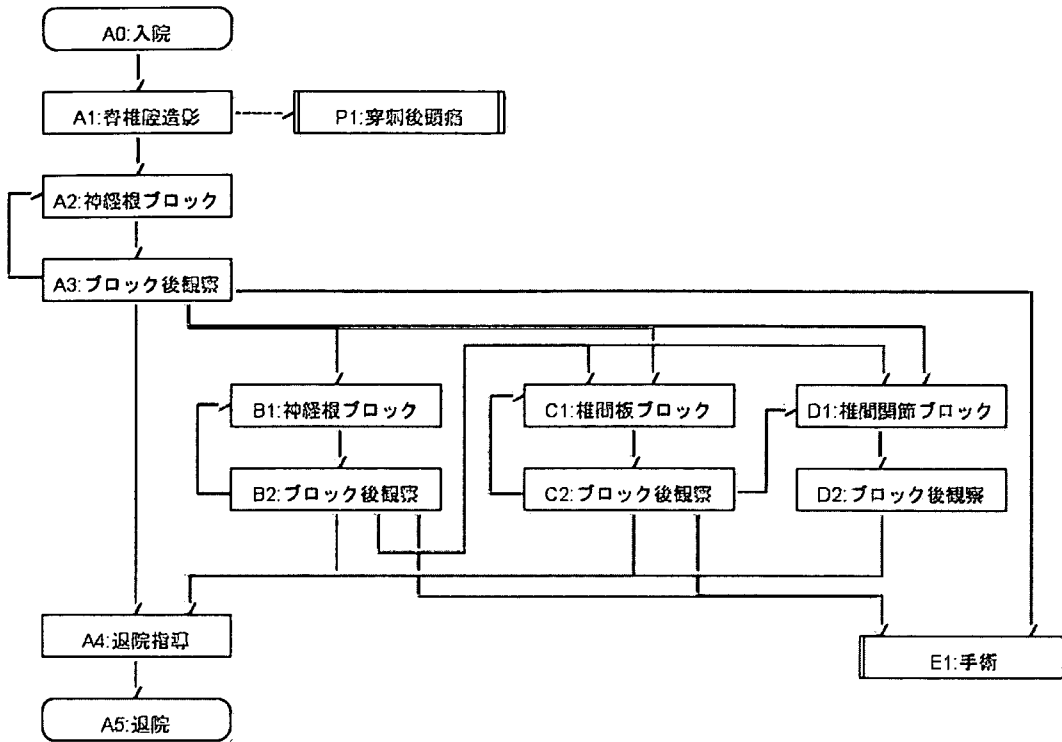
【中間集計】

移行ロジック一覧 頚椎症性神経根症

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院	脊椎腔造影が受けられる	A1:脊椎腔造影	
A1:脊椎腔造影	神経根の圧迫病変があり、身体症状と一致する 起立歩行時の頭痛出現	A2:神経根ブロック P1:穿刺後頭痛	並列
A2:神経根ブロック	予定のブロックが終了する	A3:ブロック後観察	
A3:ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず	A2:神経根ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず	A4:退院指導	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が上肢痛	B1:神経根ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が背部痛	C1:椎間板ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が頸部痛 or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが2回目and本人が手術を希望せず	D1:椎間関節ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	E1:手術	
A4:退院指導	退院指導が終了する	A5:退院	
B1:神経根ブロック	予定のブロックが終了する	B2:ブロック後観察	
B2:ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず	A4:退院指導	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず	B1:神経根ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が背部痛	C1:椎間板ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が頸部痛 or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが2回目and本人が手術を希望せず	D1:椎間関節ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	E1:手術	
C1:椎間板ブロック	予定のブロックが終了する	C2:ブロック後観察	
C2:ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず	A4:退院指導	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず	C1:椎間板ブロック	
	ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が頸部痛 or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが2回目and本人が手術を希望せず	D1:椎間関節ブロック	
	ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	E1:手術	
D1:椎間関節ブロック	予定のブロックが終了する	D2:ブロック後観察	
D2:ブロック後観察	ブロックで痛みが軽減した	A4:退院指導	

【中間集計】



頚椎症性神経根症の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
頚椎症性神経根症	A0-A1-A2-A3-A4-A5	10	50.0%	○	95.0%
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-A4-A5	4	20.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-E1	3	15.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-A2-A3-A4-A5	1	5.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-B1-B2-E1	1	5.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-C1-C2-A2-A3-A4-A5	1	5.0%	×	
	計	20	100.0%		